

研修名 第3回 京丹後市自主研修会

平成28年1月23日(土) 13:45~15:30

講演 「子どもの心をちょっとのぞいてみませんか?地域で育む生き抜く力」

講師 若新一雄氏

1 講演要旨

1) はじめに

「何で私ばかり…」 「私って才能がない…」 否定的に考える等後ろ向きに生きていた自分が、ある時を境に前向きに生きる決意をした。40年前、父と祖父が亡くなった時より、「辛いことがあっても、これを乗り越えれば良いことがあるぞ」と前向きに生きている。そのきっかけになった素晴らしいことわざ「艱難汝を玉にす」辛いことと嫌なこといろいろあるが、向かっていけば玉のような人になる。「これだ!」と思い、以降前向き、肯定的に生きている。

2) 子どもにとって大切なこと

①『自己肯定感』

- ・日本の生活は欧米化したけど、様々なアンケート結果から性格・人間性としては、「控えめに出しゃばらず」子育てにおいても「駄目よ」という否定的なことばが多いことがわかった。
- ・子どもも家から一歩出たら、様々な物事と闘い一生懸命に生きているのだ。

家に帰って玄関を開けた時、「何べん言ってもわからへんのー!」

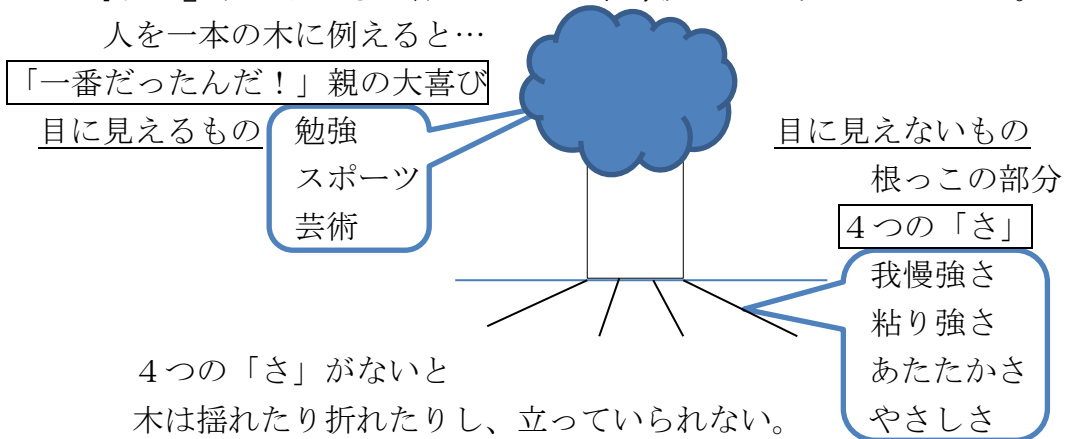
「駄目な子ね!」「どうしようもない子ね!」と言われ続けると、その枠にはめられた生き方になる。反対に「大丈夫。あなたならきっと上手くやっつけていける。だってお母さんの子どもだもの。」「いいね。」

「がんばっているね。」等と『愛のシャワー』をいっぱいかけてやると、前向きに意欲的に肯定的に育っていく。

②『自立と共生』

- ・15~6年先、今の子ども達は我々が想像できないくらい大変な時代で生きていくことになるであろう。これから変化の激しい時代に子どもから大人になっていく上で、父母や先生の話の聞いたり経験や体験をしたりする中から、自分の大切なものを選び「自分はこれだ」と自分で決める「自己選択」「自己決定」そして決めたことは責任がとれる「自己責任」が必要となる。そして全てのものを愛せる「共生」(家族愛・友人愛・動植物愛)が必要となる。

- ・『自立』する子どもに育てるために、家庭ではどうしたらよいか。
人を一本の木に例えると…



- ・家庭教育の重要さ

親の後ろ姿を見せること…親の言うことは聞かないがしている通りになる。

親の得意技があると良い…何でも良い。子どもと一緒にすること。
子どもは必ず親を見る目が変わる。

親の愛情…子どもの心の中に「あなたは私の宝よ」と思えるように。
育てる中で「良いこと悪きこと」いろいろあるが、親子で一緒に答えを見つけていくことが大切。世間体を気にしてはいけい。

3) 体験談より

「勉強はいつからでも始められる」「何があっても絶対に死のうと思っ
てはいけい」

2 感想

若新先生の熱意溢れる講演に泣いたり笑ったりしながら終始聞き入り、
気がつけばもう終了時間だった。教師人生での体験談、また父親としての
体験談から私達へ大変わかりやすくメッセージを伝えて下さり、共感
した。家に帰ってすぐに「艱難汝を玉にす」について調べてみた。「人は
困難や苦勞を乗り越える事によって初めて立派な人になる」と書いてあ
った。現在の自分の状況とも相応し、改めて「前向きに頑張らねば」と
思った。国の動向は、母親が働きながら子どもを産み育てやすい環境支
援に進んでいる。生後6ヶ月より保育所に長時間預けられる子ども達等
保育所児の本当の「心の育ち」を思うと、母親が子どもに愛のシャワー
をかけられるよう心に余裕を持つことができる雇用制度ができ、幼稚園
児のように、子どもの幸せを中心とした考え方や生活ができるような動
向になればと切に願う。
(記録 峰山保育所 田中)